

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 24 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870600479
事業所名 (ユニット名)	グループホーム くれない お幸
記入者(管理者) 氏名	伊藤有依子
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 25 日

<p>【事業所理念】</p> <p>笑顔の絶えない楽しい日々を送っていただく</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>初回調査(事業継承)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は、西条市の中心地より、瀬戸内海側に北上した田園地帯に立地している。住宅街にある事業所からは、海や田畑の景色のほか、お寺などを見ることができる。また、事業所は令和3年4月に現在の法人に事業継承され、管理者と計画作成担当者は交代したものの、多くの職員と利用者は変わらず運営され、今日に至っている。以前から事業所の雰囲気は良く、丁寧な支援が行われていたため、その部分は大きく変更せずに、新たな管理者が確認して、「少し劣っていると判断される部分を変えていこう」などと考え、サービスの質の向上に取り組むなど、今後の成長が楽しみな事業所である。さらに、外出や面会などの制限が設けられているものの、事業所では感染状況を見計らいながら、散歩や外気浴などの支援を行うとともに、可能な範囲で、利用者や家族から出された買い物支援などの要望に、柔軟に対応をしている。</p>
--------------------------------------------	---------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	個々の思いや意向を表現出来るよう把握に努めている	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から、思いや意向を聞き、把握をしている。また、ADLや病歴などを記載できるフェイスシートを活用して、情報を管理している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	申し送りや職員会議で情報を共有し、ご本人の目線にたって話し合うようにしている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族との面会時や連絡の際にお話を聞くようにしている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	職員間での情報共有は行っているが、あまり記録には残せていない	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	関わりの中で、ご本人の思いを引き出せるよう取り組んでいる	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に家族や本人に聞き取りを行い、面会時にも情報を聞くよう努めている	/	/	○	入居時に、職員はフェイスシート等を活用して、利用者や家族から、「これまでどのような生活をしてきたのか、何が好きか」などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、職員は利用者から情報を聞くよう努めているほか、家族の来訪時等を活用して情報を聞くこともある。さらに、新たに得た情報は、申し送りノート等に記載し、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の様子を職員間で共有し、申し送り時とノートにて把握できるようにしている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々観察し、些細な変化や気付き等職員間で共有している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送り時や職員会で個々の様子を話し合い、要因になっていることについて話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	介護日誌、健康管理表を活用し、情報の共有を行っている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者様ご家族両方の思いやニーズを考え都度話し合うようにしている	/	/	○	事前に、利用者や家族から意見や意向を聞くほか、フェイスシート等の把握した情報をもとに、職員会などを活用して、職員間で意見を出し合い、検討をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	都度申し送りや職員会で話し合いを行っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	職員会で話しあい	/	/	/	

愛媛県グループホームくれない

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人の意向が聞き取り出来ない場合は家族の意向に沿う内容となっている	/	/	/	事業所では、計画作成担当者が利用者や家族から意見や意向を聞くほか、職員から出された意見をすり合わせながら、介護計画を作成している。また、計画は利用者や家族の意見や意向など、できるだけ多くの意見が反映されるよう努めている。さらに、現在の法人に事業継承されてから約1年が経過する事業所のため、今後は随時、フェイスシート等の情報更新を予定している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	職員会や日々のご家族からの聞き取りにより反映するようにしている	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	個々の身体状況に応じた内容になっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	受診についてはご家族が可能であれば協力をお願いしている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	全員が十分な把握は出来ていないが意識的に把握し共有するよう努めている	/	/	/	◎ ケアチェック表や生活記録のメモを活用して、職員間で介護計画の内容を共有している。また、介護計画に基づいたサービスの実施状況や利用者の様子を生活記録等に記載するよう努めているものの、記録には個人差が見られるほか、より良いサービスを実施できていても、記録に残すことができていないことも見られるため、管理者は、介護計画の項目のできたことやできなかったこと、家族の面会の様子などを、職員に詳しく記載してもらえよう指導している。さらに、職員会を活用して、利用者一人ひとりの体調や日々の様子から出されるアイデアや気づきを、記録に残すことができています。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	職員にも意見を聞きモニタリングを行っている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に記録している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	申し送りや職員会で話し合い共有しているが、記録には残せていない	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	短期目標の期間に応じて見直しを行っている	/	/	/	◎ 6か月に1回、介護計画の見直しとフェイスシート等の情報を更新している。また、毎月実施する職員会で、ケアチェック表等を活用して、利用者の現状確認をしている。さらに、事業所の事業継承から約1年間で、状態に大きな変化の見られた利用者はいないものの、急な変化があった場合には、その都度介護計画の変更を予定している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月職員会で個々の現状確認を行っている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があれば、本人家族主治医と相談し計画の見直し変更を行っている	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月に1回職員会を行い緊急時は現場の職員間で話し合いを行っている	/	/	/	○ 月1回職員会を実施し、職員間で話し合うとともに、議事録を作成し、回覧をしている。また、大事なことや忘れやすいことは、名札や各ユニットの冷蔵庫に貼り、職員が確認しやすいよう工夫している。さらに、申し送りノートは、出勤時等に全ての職員が確認することができている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	話しやすい雰囲気作りが出来ている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	日程を調整し、不参加の職員にも分かるよう申し送りを行っている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送り事項を説明している	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	毎日の申し送りを行っている	/	/	/	○ 日々の申し送りを口頭で実施するほか、申し送りノートを活用して、詳細な情報まで伝達するようにしている。また、職員は出勤時に申し送りノートや日誌等の確認を行うとともに、職員の確認印までは取っていないものの、管理者は、「問題なく、職員間で情報共有ができています」と認識している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートや日誌を活用し共有している	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	訴えに対して可能な限り行っている	/	/	/	着たい洋服や食べたいおやつ、飲み物のコーヒーなど、職員は利用者へ声をかけ、選択してもらえるような機会づくりに努めている。また、事業所には、事業継承の以前から勤務していた職員も多く、風土として、他人にやさしく、良好な雰囲気を感じることができた。さらに、利用者と職員の関係性もよく、歌の歌唱やぬり絵、トランプなどのレクリエーション時には、快い声かけを行うなど、活き活きとした表情が見られるような支援にも努めている。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択が可能な方には本人の希望を傾聴し決定していただいている	/	/	/		◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	様子を観察しながら会話、交流し気持ちに沿うよう対応している	/	/	/		/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活習慣や本人の特性を観察し、希望に応じて対応している	/	/	/		/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔になれるような言葉かけに努めている	/	/	/		/	◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	反応や態度を観察し些細な変化にも気づくことができるよう努めている	/	/	/		/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	自尊心を傷つけないような声掛けを行い穏やかな態度で接するよう努めている	/	/	/	◎ ◎ ○		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	職員によってばらつきはあるが声掛けの方法や大きさ等配慮のある声掛けを行っている	/	/	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	入浴時、排泄時は担当者以外は出入りを控えるようにしている	/	/	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時にはノックをして入室するようにしている	/	/	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	業務上知り得た個人情報については厳重に管理し、むやみに話題にしないようにしている	/	/	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物を畳む、掃除、洗い物など出来ることを手伝ってもらい感謝の気持ちを伝えている	/	/	/	/		
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が声を掛け合い励ましあえるような関係づくり出来るよう心がけている	/	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	都度座席の配置替えをしたり職員が間に入って関係性が改善するよう心がけている	/	/	/	/		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブル時には間に入り、お互いから傾聴し関係性が悪化しないよう注意している	/	/	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントを元に本人との会話や家族との会話交流のなかで情報を得ている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	以前よく利用していた場所等を聞き取り把握するよう努めている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナウイルスの影響により外出が出来ていない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナウイルスの影響により面会が出来ていないが、可能となれば本人の希望や状態によって居室での面会も可能	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナウイルスの影響の無い時には散歩や畑、外出が行っていたが現在は玄関先までに限定されている	○	○	△	コロナ禍において、事業所では外出制限が設けられており、利用者は、事業所外の人との接触は控えている。また、事業所では感染状況を見計らいながら、事業所周辺を散歩したり、屋外に出て外気浴をしたりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。さらに、重度の利用者も、可能な範囲で、散歩などに出かけることができている。コロナ禍の収束後には、外出行事を実施したり、家族の協力を得ながら外出したりするなど、利用者や家族の意見や要望を取り入れた外出支援ができることを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナウイルスの影響により行えていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	コロナウイルスの影響により行えていない	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナウイルスの影響により行えていないが、緩和すればご家族の協力も得ながら外出を行っていく予定	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	傾聴や声掛けを頻繁に行っているが対応がスムーズにいかないこともある	/	/	/	体操や風船パレーなど、身体機能に合わせたレクリエーションを実施し、利用者の心身機能の維持に努めている。また、現在は歌の好きな利用者も多く、懐かしい歌を流したり、みんなでカラオケを歌ったりするなど、楽しみのある支援にも努めている。さらに、利用者一人ひとりのできることや、できないことを確認し、極力できることやできそうなことは時間が掛かっても自分でしてもらい、職員は見守りや声かけ、待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	体操を行い筋力維持の為に歩行練習や口腔体操も毎日行っている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	身体能力に合ったレクリエーションに取り組んでいただけるよう声掛けを行っている	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活習慣や生活リズムを崩さないよう取り組んでいる	/	/	/	洗濯物たたみや掃除、お盆拭き、買い物してきた物を運んでもらう、タンスにたたんだ服を収納してもらいなど、事業所では利用者に手伝いなどの役割を担ってもらえることができている。また、手伝ってもらった際には、職員から「ありがとう」と感謝の言葉を伝える機会が多くあるほか、利用者の方から「手伝うよ」と言ってもらえることもある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれの得意なことや出来ることを把握し無理せず参加していただけるよう努めている	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナウイルスの影響により行えていない	/	/	/	

愛媛県グループホームくれない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自宅で愛用していた物を持参していただき、ご本人の着たいものを選んでいただいている				入浴時や起床時に、着る服を自分で選び、身だしなみを整えることができる利用者もいる。また、整容の乱れや食べこぼしなどの汚れが見られた場合には、利用者のプライドを大切にされた配慮をしながら、さりげないフォローをしている。さらに、重度になった場合にも、利用者や家族から好みの服を聞き、家族に用意してもらうなど、本人らしさが少しでも保てるような支援に努めている。加えて、訪問理容などを活用して、髪型も利用者の希望を聞きながら、整えることができる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の希望や意向に沿うよう対応している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声掛けを行いご本人が納得出来るよう努めている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご本人の意思を確認しながら選んでいただいている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしながらさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドが傷つけないよう声掛けに配慮している	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご本人の希望により、ご家族の協力を得て外出を行っている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	意思疎通が困難であっても、ご家族からの情報等から本人の好み服装を把握出来ている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	できる限り口から摂取していただけるよう支援している				事業所では、業者の配食サービスを活用しており、事業所内で炊飯や汁物の調理をするほか、届けられたおかずの盛り付けを行い、利用者に食事を提供している。また、利用者には、お盆拭きや食器洗い、下膳など、できることを手伝ってもらっている。時には、配食サービスを止め、利用者のリクエストを反映させて職員が手作りの調理を行う日を設け、利用者が食事を楽めるよう工夫している。茶碗や湯飲み等は、使い慣れた物を持ってきてもらい、使用している。コロナ禍において、食事を職員がマスクをはずして一緒に食べることを控えているものの、少し離れた場所で検食を兼ねて同じメニューを順番に職員が食べている。また、リビングの中にキッチンがあり、重度であっても、食事の準備の様子を感じることができているほか、メニューを伝えるなど、食事が楽しみに待てるような支援にも取り組んでいる。さらに、配食サービスのため、栄養の偏りは見られないものの、利用者の状態に合わせて、刻みやミキサーなどの食事形態を職員間で話し合い、事業所内で個別に対応することができる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物、献立作りは行っていないが後片付けは一緒に行っている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	作業後には必ず感謝を伝え、自信をもってもらえるよう努めている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	本人の様子や聞き取り、ご家族からの情報を得て把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	×	配色サービスの為献立作りは行っていない			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	ご本人に見合った食事形態で提供しており、美味しそうに見えるよう努めている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	ご本人愛用のものや、使いやすい食器を試しながら食べやすいよう工夫している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	感染予防の観点から一緒に食事をとらないこともあるが、その場合でも見守りやサポートが行える体制をとっている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	今日のメニューや調理法、季節の食材の話等食事に関わる会話をしている		◎	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	介護記録に食分量、水分量を記入している				
		k	食分量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	ご本人の希望や身体状況に沿った食事提供を行っている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	配色サービスを使用しており、レクの際には話し合いを行って決めている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食事前の手洗い消毒を励行している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後に歯磨きの声かけ、介助を行っている				定期的に、事業所には訪問歯科の健診があり、利用者の口腔内の状況を確認してもらうとともに、口腔ケアの方法などのアドバイスをもらうことができています。また、治療が必要な場合には家族へ連絡を行い、適宜訪問診療等に繋げている。さらに、毎食後に職員は利用者に声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、特に夕食後の口腔ケアに力を入れて取り組んでいる。加えて、口腔ケア時には、職員が磨き残しなどがないようにチェックを行うほか、磨き残しがある場合には、サポートをしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	異変があれば情報共有を行いご家族とも相談の上訪問歯科を利用している			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科での受診の際に口腔ケアについてアドバイスをもらい活かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	それぞれの状態に応じて支援できている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の口腔ケアの声かけ見守りを行い可能な限り自力で行えるよう支援している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常を発見した際にはご家族に報告し歯科受診を行っている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解し、排泄の自立に向けて支援している				事業所では、トイレでの排泄を基本として、支援に努めている。また、職員は排泄記録を確認し、排泄パターンのほか、自分でトイレへ行ける利用者や付き添いの必要な利用者などの状況を個別に把握し、声かけやトイレ誘導をしている。また、必要に応じて、おむつやパッドなどの使用を職員間で話し合うとともに、家族に確認を行い、適切な排泄用品が使用できるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解し、便秘予防に努めている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	記録を通して把握し共有している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	可能な限りトイレで排泄することを基本的支援と考えている。身体や認知症の状態によって随時検討している		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	職員間での情報共有により都度話し合いを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の表情や行動を観察し適宜対応している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	介護記録を参考にスムーズに排泄が行えるよう都度対応している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中、夜間に合ったものを使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	体操やマッサージを行ったり水分摂取を促している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人の体調に応じて時間帯や曜日を決めている。湯温は都度ご本人に聞くようにしている		◎	○	事業所では、入浴できる曜日が決まっているものの、利用者の意向や汚れなどの状況に応じて、決められた日時以外に入浴を可能としている。また、お風呂の予定表は、キッチンの前に貼り、週2回以上利用者が入浴できるよう支援している。さらに、湯の温度や湯船に浸かる時間の長さなど、利用者の希望に応じて、柔軟に対応をしている。加えて、入浴を拒む利用者には、職員が根気よく声かけをするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができています。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	本人のベースやこだわりに応じて入浴していただくよう努めている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存能力を活かし出来ることはしてもらい転倒や体調の変化に注意しながら入浴できている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴したいという気持ちになるよう声掛けを行っている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルの確認を行い入浴前後に異常がないか確認している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の排泄パターンの把握により、おおよその睡眠パターンを把握している	/	/	/	事業所には、夜間に眠りの浅い利用者があるものの、睡眠導入剤や安定剤などの薬剤を安易に頼ることなく、日中の過ごし方を工夫しながら、可能な限り、夜間に安眠できるよう努めている。また、事業所ではセンサーマットを使用したり、ベッドの周りにマットを敷き詰めたりするなど、起床時等に転倒による事故や怪我の防止に努めている。さらに、不眠などの続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師に相談し、睡眠導入剤などを処方してもらう場合もある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の過ごし方について朝夕の申し送りで共有し原因を考え過ごし方を話し合っている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	医師に相談を行いながら日中の過ごし方を話し合い共有している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	気兼ねなく静養できるような声かけ、見守りを行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の要望に応えるようにしている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状作成の際には本人の希望を聞き職員が代筆を行った	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば対応を行っている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙や葉書は本人にお渡しし、いつでも読めるよう居室に保管している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族からの手紙や葉書もよくあり協力していただいている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	ほぼ全員の方が自己管理は難しく、ご家族より預かっている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	コロナウイルスの影響により行えていないが、緩和すればご家族の協力も得ながら外出を行っていく予定	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナウイルスの影響により行えていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	自己管理は難しい為ご家族と相談し本人希望の物を買うようにしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	自己管理をされている方がいない為、都度ご家族に許可を取るようになっている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法についてはご家族に説明し定期的に預り金台帳とレシートを送付し確認していただいている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	定期受診の際の付き添いや本人希望の買い物など可能な限り本人の希望に添えるよう努めている	◎	/	○	コロナ禍において、事業所では、外出や面会などの制限が設けられているものの、可能な範囲で、利用者や家族から出された意見や要望には、柔軟な対応に努めている。また、事業所では、個別にお菓子や花などの買い物支援にも取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	△	コロナウイルスの影響により出入りを制限している	◎	◎	○	住宅街にある事業所の建物は違和感なく周囲に馴染んでおり、気軽に来訪しやすい雰囲気を感じられる。また、玄関周辺も、きれいに整理整頓されている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共有スペースに季節にあった飾り付けを行っている	○	◎	◎	大きなテーブルが置かれたリビングは明るく、日中に利用者は集い、ぬり絵やランプ、カラオケなどのレクリエーションを楽しんでいる。また、壁には季節感のあふれる展示物が飾られ、利用者の多くの力作を見ることができた。さらに、事業所内の掃除は行き届き、不快な音や臭いは感じられない。加えて、食事の準備をはじめ、リビングの様子が利用者や来訪者に伝わりやすく、和やかな雰囲気を醸し出してくれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の換気、掃除を行っており空気清浄機を設置している	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	毎日の天候を話し合ったり季節に合った食べ物を食べたり季節に合った飾りつけを利用者様と一緒に飾り付けている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方と過ごせるよう椅子を配置したり居室で自由に静養できるよう配慮している	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	排泄時や入浴時には必ず戸を閉めるようにしている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で愛用していた物や、ご家族の写真を飾る等している	○	/	◎	居室の入り口には、利用者の分かりやすい高さで表札が設置されている。また、居室にはチェストやテレビ、机、ソファ、仏壇、家族の写真など、利用者の好みや馴染みの物を持ち込むことができ、思い思いに配置するなど、快適な空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室の扉に名前を書いた額を貼り入室が分かるようにしている。トイレには張り紙を貼る場所が分かるよう配慮している	/	/	○	居室やトイレは、利用者の分かりやすい高さで名前などが表示され、利用者が混乱せずに、生活が送れるよう工夫している。また、事業所では洗濯物たたみや清掃、食器洗いなど、利用者積極的に手伝ってもらうとともに、職員は間違っただとしても特に指摘することなく、穏やかさを重視した支援に取り組んでいる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	混乱、不安、失敗があれば原因を話し合い、繰り返されないよう対応している	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	掃除道具は収納しているがいつでも手に取れるようには出来ていない。新聞や本はホールの本棚やテーブルの上に置いており誰でも手に取れるようにしている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解している	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることの弊害をよく理解しており、日中に玄関等の施錠はしていない。また、外出願望や外に出ようとする利用者には、職員が寄り添い、屋外に出るなどの対応をしている。さらに、夜間は防犯のため、玄関等の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	行動を制限することのないよう見守り声掛けを行うことで安全を確保している	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入居者の状態にもよるが日中は鍵をかけていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別ファイルで管理している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	申し送りノートや介護記録にて周知している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあれば主治医に電話や受診対応をお願いしている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に希望される医療機関を確認し対応している。入居後にも状態に応じて家族や本人の意向を確認し対応している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人及び家族の意向に沿って適切な医療が受けられるよう医療との連携を取り支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診の結果報告はご家族に伝えて情報を共有している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	その都度情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中にも病院の看護師や相談員と連絡を取り情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日々の受診の際に同行、報告を行い関係づくりに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	その都度情報提供を行っている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	連絡可能な体制づくりができています				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の申し送りやミーティングを通して支援体制を整えている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬情報を管理したファイルを共有し理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬確認を行い飲み忘れのないよう努めている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日常的に副作用に注意しており変化があれば主治医に相談対応している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	定期受診時には必ず状態報告を行っている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態の変化に応じて話し合い、本人家族の意向に沿えるよう支援している	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居時や状態の変化に応じて、家族に説明するよう努めているものの、約1年前に事業継承されたため、既に入居していた全ての家族にまでは説明できていない。また、事業所では、事業継承されてから1名の看取り介護を経験している。さらに、状態の変化に応じて、利用者や家族、医師等の関係者を交えて話し合いをしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ご本人の状態によって主治医や家族と方針を共有している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員からは聞き取りを行い、いつでも連絡可能な体制にしている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約書の文面に記載し、必要時には再度説明を行っている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医等の医療関係者には本人やご家族の意向に沿って苦しむことなく過ごせるよう相談を行っている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時や電話での相談等ご家族の気持ちに寄り添えるよう努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修により感染予防について学んでいる	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを準備しており職員がいつでも手に取れるようにしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビやインターネットで情報を入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集を行いマスク着用消毒手洗いの徹底と面会の制限を行っている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員のマスク着用手洗いうがい消毒の徹底と体温測定の健康管理を行い来訪者にも体温測定管理簿への記入を行っている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や日々の連絡で現状を伝え本人の為に協力してもらっている	/	/	/	事業継承前のコロナ禍以前は、家族へ行事等の参加協力を呼びかけたり、家族に利用料金を窓口で支払ってもらった際の来訪に合わせて、コミュニケーションを図ったりすることができていたが、現在のコロナ禍において、事業所の活動参加への呼びかけなどを自粛している。また、事業所だより等を活用して、利用者一人ひとりの活動写真や事業所の出来事などを記載して送付し、家族に喜ばれている。過去の便りには、管理者や計画作成担当者の入職状況が記載されているものの、コロナ禍もあり、利用者家族等アンケート結果から、事業所の運営上の事柄や職員の入退職が十分に伝わっていないことがうかがえるため、今後は、家族への周知方法を職員間で検討することを期待したい。さらに、家族と何でも相談し合える関係性が築かれ、意見や意向を聞くことができています。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	来訪時にはご本人とゆっくり過ごしていただけるよう心がけているが現状はコロナウイルスの影響の為面会を行っていない	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナウイルスの影響のため行っていない	×	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月のお便りではご家族に写真を送付している	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話にて対応している	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	仲の良さや、どんなやり取りをされているかを把握。現状の症状や好きなこと等教えていただいている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事については毎月のお便りで知らせているが職員の異動については記載していない	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	コロナウイルスの影響のため行っていない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入所時にリスクについての説明をし、理解していただいている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時にはご家族と話す機会を多く持つようにしている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時には家族、本人に説明を行っている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去される際は家族の希望に沿う形での退去となっている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	運営推進会議にて理解を得る予定だがコロナウイルスの影響のため電話や書類のみでの説明となっている	/	◎	/	コロナ禍において、事業所では、地域行事などに参加することができておらず、散歩時などの近隣住民とのあいさつ程度に留まっている。コロナ禍以前は、近隣の保育園児と交流をしたり、気軽に地域住民や子どもが事業所へ来訪したりすることができていた。コロナ禍の収束後には、地域住民との交流等が再開できることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	日常的な挨拶や散歩の際の挨拶は行っているがコロナウイルスの影響のため地域行事には参加出来ていない	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	コロナウイルスの影響のため行えていない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナウイルスの影響のため行えていない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナウイルスの影響のため行えていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナウイルスの影響のため行えていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	現在はコロナウイルスの影響のため行えていないが買い物等行う予定	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	訪問理美容を使用した散髪を行っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルスの影響のため電話での聞き取り開催となっている	×	/	△	運営推進会議の参加メンバーは、地域住民等に無作為に選んで依頼しているほか、自治会の役員にも声かけをしている。今後は、利用者や家族にも会議開催を幅広く周知するとともに、書面や議事録の発送などを参加の一環と捉えて、会議へ参画してもらいながら、サービスの質の向上に繋がることを期待したい。また、事業所では、事業継承後の最初の外部評価のため、今後の運営推進会議の中で、サービスの評価結果の報告を予定していることもあり、目標達成計画を合わせて明示し、報告できることを期待したい。さらに、現在の運営推進会議は、書面を通して意見の交換が行われている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	評価終了後は報告する予定	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	報告書を作成後文書での報告を行っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナウイルスの影響により電話開催となっている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	出来ている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員との話し合いのなかで理念を作り、日々の実践が理念に基づいたものになるよう努めている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	より理解を深めるため働きかけが必要である。地域の人たちには現状伝えられていない。	△	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	職員のケアと実際と力量を踏まえ法人内外の研修に参加予定であるがコロナの影響により法人外の研修には参加出来ない	/	/	/	事業所では、年間の研修計画を作成するとともに、定期的に社内研修等を実施し、職員のスキルアップに努めている。また、職員にはストレスチェックを実施するとともに、管理者は職員への声かけや適切な相談等に繋げている。さらに、管理者は職員の相談等に耳を傾けながら、働きやすい職場環境づくりに努めている。加えて、管理者は、「職員同士の良好な関係性ができている」と感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務での気付きや必要な知識についてその場でアドバイスを行っている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	法人の処遇改善計画に基づき職場環境・雇用条件の整備に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナウイルスの影響もあり参加出来ない	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員に声掛けを行い困っていることはないか訪ねておりストレスチェックを行っている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	法人の内部学習会で定期的に学ぶ機会を設け具体的な内容の理解に努めている	/	/	/	社内研修等を活用して、職員は虐待防止等を学び、理解をしている。また、外部の研修に参加できないこともあり、ユーチューブの動画配信等を活用して、不適切なケアなども学ぶとともに、不適切な行為を発見した場合には、管理者等に報告して注意喚起を行い、再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	日々のケアについて職員ごとに確認を行っているがケアの実践につながる働きかけには工夫が必要である	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケア及び発見時の対処、通報義務については周知している	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	定期的にストレスチェックを行い、声掛けを行っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	個々の理解に差があり意識の統一を図っている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	職員会や日々の話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	×	家族からの要望があれば説明を行う	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	学ぶ機会は設けているが職員の理解にはばらつきがある	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	対象となる方がいれば行う	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	法人には相談に乗ってもらえる環境がある	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	対応マニュアルは作成しているが内容の周知は不十分である	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	緊急時の対応については話し合いを行っている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットや事故報告書を共有し話し合う機会を設けている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	職員会では個々のリスクや事故防止の為に話し合いを行っている	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルはあるが理解にはばらつきがある	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	×	苦情の例がない	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	×	苦情の例がない	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	利用者には普段の日常会話から意見や要望を聞き取るよう取り組んでいる	/	/	○	日々の支援の中で、職員は利用者から意見や要望を直接聞き取り、可能な範囲で対応をしている。また、事業所から意見を聞く前に、家族と何でも相談し合える関係性が築かれ、意見や要望を聞くことができています。さらに、職員はリーダーや管理者に、意見や要望を伝えやすい雰囲気づくりができています。運営に関する事柄は少ない状況となっている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	利用開始時に相談窓口及び意見箱についての説明は行っている。来所時に意見や要望を聞き取るよう努めている	◎	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	契約当初のみでの情報提供である	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	法人代表者は定期的に来所し職員の要望や提案を聞くよう努めている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員個別の気付きや意見を取り入れ利用者本位の支援を実践出来るよう努めている	/	/	○	

愛媛県グループホームくれない

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	外部評価以外は行っていない				事業継承された事業所では、今回が初めての外部評価のため、管理者やリーダー等を中心に、自己評価を作成している。今後、サービスの評価結果は職員全員に周知するとともに、運営推進会議の中で報告を予定している。また、評価結果は、事業所からの報告のみに留まらず、コロナ禍の収束後には、目標達成計画などの取組み状況のモニターを、会議の参加メンバーや家族に協力を呼びかけたり、取組み状況の意見をもらったりするなど、モニターをしてもらえるような体制づくりを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	外部評価の結果を職員全員に周知し取り組んでいく予定				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成に向けて事業所全体で取り組んでいく予定				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議でも報告を行い、意見交換を行う予定	△	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	事業所内の取り組み成果は確認できていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	対応マニュアルは作成しているが内容の周知は不十分である				年2回、日中や夜間等を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍において、他の機関や地域住民等との合同訓練までは実施できていない。コロナ禍の収束後には、地域住民や家族等の参加協力を得て、避難訓練を実施したり、運営推進会議を活用して、災害の備えなどを話し合ったりするなど、少しずつ協力支援体制が構築されることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	訓練は行っているが様々な時間帯の想定は行っていない				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災訓練時に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	支援体制についての話し合いは行っていない	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	参加出来ていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	行っていない				事業所では、積極的な相談の周知までは行っていないものの、寄せられた相談には快く対応をしている。コロナ禍において、事業所では他の関係機関との連携は最小限に留めているものの、市行政や地域包括支援センターとの良好な連携に努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があった時には相談支援を行っている		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナウイルスの影響により行っていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	実習受け入れ等あれば積極的に受け入れる				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナウイルスの影響により行っていない			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 3 月 24 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870600479
事業所名	グループホーム くれない
(ユニット名)	お福
記入者(管理者)	
氏名	渡部好恵
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 25 日

<p>【事業所理念】 笑顔の絶えない楽しい日々を送っていただく</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 初回調査(事業継承)</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、西条市の中心地より、瀬戸内海側に北上した田園地帯に立地している。住宅街にある事業所からは、海や田畑の景色のほか、お寺などを見ることができる。また、事業所は令和3年4月に現在の法人に事業継承され、管理者と計画作成担当者は交代したものの、多くの職員と利用者は変わらず運営され、今日に至っている。以前から事業所の雰囲気は良く、丁寧な支援が行われていたため、その部分は大きく変更せずに、新たな管理者が確認して、「少し劣っていると判断される部分を変えていこう」などと考え、サービスの質の向上に取り組むなど、今後の成長が楽しみな事業所である。さらに、外出や面会などの制限が設けられているものの、事業所では感染状況を見計らいながら、散歩や外気浴などの支援を行うとともに、可能な範囲で、利用者や家族から出された買い物支援などの要望に、柔軟に対応をしている。</p>
-----------------------------------------	------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃の会話や行動、聞き取りにて本人の希望、意向の把握に努めている	○	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から、思いや意向を聞き、把握をしている。また、ADLや病歴などを記載できるフェイスシートを活用して、情報を管理している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	把握が困難な場合も本人の行動やしぐさでわかる範囲をスタッフ間で検討、共有している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族に聞きながら、本人の思い、どうしたいか、何をしたいかについてはスタッフ間にて話し合っている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日常会話から帰りたい、食べたい等本人の思いを聞き、介護記録に記入している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	介護する上で垣間見える本人の思いを発見できるよう接している	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	利用者や家族より聞き取りを行い、日頃の会話、面会時に聞いている	/	/	○	入居時に、職員はフェイスシート等を活用して、利用者や家族から、「これまでどのような生活をしてきたのか、何が好きか」などの聞き取りをしている。また、日々の生活の中で、職員は利用者から情報を聞くよう努めているほか、家族の来訪時等を活用して情報を聞くこともある。さらに、新たに得た情報は、申し送りノート等に記載し、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	利用者の有する力の現状の把握は日頃の介護の中で行っている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で不安になる時等の本人の様子を把握している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不安定になる要因等は日々の介護の中で関わりながら把握している	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録、排泄、水分表への記録や申し送り等にて把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	職員会や日頃の申し送り等にて検討行っている	/	/	○	事前に、利用者や家族から意見や意向を聞くほか、フェイスシート等の把握した情報をもとに、職員会などを活用して、職員間で意見を出し合い、検討をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	職員課や申し送り等にて本人に必要な支援の検討は行っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	よりよく暮らすための課題は明らかにしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日頃、本人と関わっている中で思い、意向を聞きながら反映した内容になっている	/	/	/	事業所では、計画作成担当者が利用者や家族から意見や意向を聞くほか、職員から出された意見をすり合わせながら、介護計画を作成している。また、計画は利用者や家族の意見や意向など、できるだけ多くの意見が反映されるよう努めている。さらに、現在の法人に事業継承されてから約1年が経過する事業所のため、今後は随時、フェイスシート等の情報更新を予定している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人、家族、スタッフに聞き、話し合いながら課題、ケアのあり方、支援の内容を反映し作成している	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者、自分の思いを言えない利用者に対しても慣れ親しんだ暮らし方や変わりなく過ごせる内容となっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	面会や病院受診等にて家族とは協力体制が取れているが、地域の日人達との協力体制は盛り込んでいないが、コロナの時期もあり実施は出来ていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画はスタッフが目につく所へ入れており、更新、変更月の計画は毎日使用しているファイルへ入れており、スタッフ間にて共有している	/	/	/	◎ ケアチェック表や生活記録のメモを活用して、職員間で介護計画の内容を共有している。また、介護計画に基づいたサービスの実施状況や利用者の様子を生活記録等に記載するよう努めているものの、記録には個人差が見られるほか、より良いサービスを実施できていても、記録に残すことができていないことも見られるため、管理者は、介護計画の項目のできたことやできなかったこと、家族の面会の様子などを、職員に詳しく記載してもらえるよう指導している。さらに、職員会を活用して、利用者一人ひとりの体調や日々の様子から出されるアイデアや気づきを、記録に残すことができています。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	「施設サービス計画実施状況一覧表」を作成し、毎日使用しているファイルへ入れ、毎日の担当、利用者ごとの担当スタッフを決めており確認、記録を行い、日々の支援につなげている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	利用者別の介護記録へ毎日の暮らしの様子は記入、記録している	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者別の介護記録、日誌、申し送りノートにて記録している	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	基本6ヶ月にて見直しを行っているが、本人の様子、状況が変わったときは随時見直しを行っている	/	/	/	◎ 6か月に1回、介護計画の見直しとフェイスシート等の情報を更新している。また、毎月実施する職員会で、ケアチェック表等を活用して、利用者の現状確認をしている。さらに、事業所の事業継承から約1年間で、状態に大きな変化の見られた利用者はいないものの、急な変化があった場合には、その都度介護計画の変更を予定している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1度行っている職員会にて現状確認を行い、それぞれ担当スタッフが利用者別に本人の様子と評価を行っており、管理者、ケアマネが確認している	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態に変化がある時は随時本人、家族、スタッフへ聞きながら見直しを行い、今の本人の状態にあった新たな計画を作成している	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的には行っており、緊急性の課題があればその都度、聞き取り、その場にて話し合い、チームとしてケアを行う上で決まった事、支援の内容等、情報の共有を行っている	/	/	/	○ 月1回職員会を実施し、職員間で話し合うとともに、議事録を作成し、回覧をしている。また、大事なことや忘れやすいことは、名札や各ユニットの冷蔵庫に貼り、職員が確認しやすいよう工夫している。さらに、申し送りノートは、出勤時等に全ての職員が確認することができている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	お互い意見交換が出来る雰囲気づくりは行っており、随時スタッフの気づき等を聞き、話し合いを行い、解決できるようにしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	全ての職員が参加対象であり、参加が出来るように開催日時、場所は工夫している。夕方行い、勤務中のスタッフも参加できるようにフロアにて行っている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや目につく所への提示を行っている	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	検討し、共有できるしくみを作っており、実施している	/	/	/	○ 日々の申し送りを口頭で実施するほか、申し送りノートを活用して、詳細な情報まで伝達するようにしている。また、職員は出勤時に申し送りノートや日誌等の確認を行うとともに、職員の確認印までは取っていないものの、管理者は、「問題なく、職員間で情報共有ができています」と認識している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	伝達すべき内容は、日誌、申し送りノート、個別に口頭にて伝える、目につく所に提示する等の方法を取り、伝え、共有出来るようにしている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者のその日したいことの把握はしており、叶える努力を行っている	/	/	/	着たい洋服や食べたいおやつ、飲み物のコーヒーなど、職員は利用者へ声をかけ、選択してもらえるような機会づくりに努めている。また、事業所には、事業継承の以前から勤務していた職員も多く、風土として、他人にやさしく、良好な雰囲気を感じることができた。さらに、利用者と職員の関係性もよく、歌の歌唱やぬり絵、トランプなどのレクリエーション時には、快い声かけを行うなど、活き活きとした表情が見られるような支援にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服選びや飲み物、レクリエーション方法等本人が自己決定できる内容の機会は設けており、決めて頂いている	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日頃の関わりの中で話を聞いたり、言えるような雰囲気にする等の支援行いながら本人に決定して頂き、納得しながら生活出来る様支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	スタッフの都合での支援になっている所もあるが、なるべくゆとり本人のペースにて生活出来る様な支援を行っている。早期より起きる方はそのまま起きて頂く、入浴や排泄の拒否があれば順番を変える等本人もスタッフも無理のない支援を心がけている	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者の生き生きとした言動や表情を引き出す声掛けや雰囲気作り、支援は行っている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	意思疎通が困難な方や自分の思いを伝える事が出来ない方でも日頃の支援の中で感じたり本人の反応にて本人の意向に沿った暮らし方が出来る様支援している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者の誇り、プライバシーを大切にしたい声掛け、態度を意識して支援行っている。出来ないスタッフがいればその場にて注意、アドバイスをするなどしている	◎	◎	○	職員は社内研修等で、人権や尊厳などを学び、自尊心を傷つけない声かけや態度で接することができている。今後管理者は、「気になる点など、さらなる改善をしていきたい」と考えている。また、日頃から、職員は優しい声かけなどの言動で、きつい言葉を発することのない支援に取り組んでいる。さらに、職員は居室をプライベート空間であることを認識できている。声かけやノックをしてから、入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者に敬意を払い、不快にさせない、さりげない声掛けや対応を心がけ、支援行っている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けの言葉、入浴、排泄時には戸を開める等行いプライバシー等に配慮しながら本人が不快な気持ちにならないように介助行っている。同性のスタッフの介助を望む利用者がありその都度対応している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入り時はノック行い出入り行い、本人がいない時に出入りするときは本人へ断り入室するなどプライバシーの場所であることを理解し配慮しながら支援行っている	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。社内研修行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	夜勤者一人での時間帯など一人での対応が難しい時など、立ち上がり転倒の危険性のある方の横に居て頂く、ホーム内手伝いをして頂く等お互いに感謝し合う関係性を築いている	/	/	/	職員は、洗濯物たたみや食器洗いなどを手伝ってもらった場合には、感謝の言葉を伝えている。また、職員は利用者同士の関係性を把握し、配席を考慮するなど、トラブルが起こらないように努めている。時には、不穏になると過激な言葉を発したり、手を上げようとしたりする利用者も見られるため、職員は事前に配慮するほか、トラブルになりそうな場合には、早期に職員が間に入るなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の声かけ、何かを一緒にする、できない所を助け、支え合って暮らしており、スタッフは支え合って暮らしていく大切さを理解出来ている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	利用者同士がトラブルにならないように席の配置など工夫している。トラブルになりそうな時はスタッフが介入し、回避している	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	大きい声は皆さんが不安がる為、トラブル時はどんな対応が良いか瞬時に見極め対応している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人を取り巻く人間関係は家族や本人から聞き取り当行い把握に努めている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日頃の会話や家族や本人から聞き取り等にて把握に努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナの時期もあり、馴染みの場所に出かける等の外出はできていない。家族との面会は時間制限はあるが、出来るようにしており、出来ている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナの時期もあり、時間制限、人数制限はあるが、面会が出来るようにしている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	季節、時間等見ながら散歩、日向ぼっこ、洗濯干し、片付け等の声掛け行い、支援行っている。本人よりの希望があれば支援行っている	○	○	△	コロナ禍において、事業所では外出制限が設けられており、利用者は、事業所外の人との接触は控えている。また、事業所では感染状況を見計らいながら、事業所周辺を散歩したり、屋外に出て外気浴をしたりするなど、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。さらに、重度の利用者も、可能な範囲で、散歩などに出かけることができています。コロナ禍の収束後には、外出行事を実施したり、家族の協力を得ながら外出したりするなど、利用者や家族の意見や要望を取り入れた外出支援ができることを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナの時期もあり、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力にての外出は出来ない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天候見ながら、できる範囲の散歩等行っている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	コロナの時期もあり、普段は行けないような場所の外出は出来ない。家族と共に出かけられた方はいる				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修行っており、1人一人に合ったケアを行っている				体操や風船バレーなど、身体機能に合わせたレクリエーションを実施し、利用者の心身機能の維持に努めている。また、現在は歌の好きな利用者も多く、懐かしい歌を流したり、みんなでカラオケを歌ったりするなど、楽しみのある支援にも努めている。さらに、利用者一人ひとりのできることや、できないことを確認し、極力できることやできそうなことは時間が掛かっても自分でしてもらい、職員は見守りや声かけ、待つ介護に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	歩行、食事、排泄など本人が出来る事は継続し、出来ない所は介助行っている。排泄はトイレにて、歩行できる方は補助具を使用しながら歩行行っている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人が出来る事、できそうな事は見守り、時には手伝いながら継続出来る様に支援行っている	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人が出来そうな事、出来る事を聞き取りや日頃の様子にて把握し、いつも探している				洗濯物たたみや掃除、お盆拭き、買い物してきた物を運んでもらう、タンスにたたんだ服を収納してもらいなど、事業所では利用者到手伝いなどの役割を担ってもらうことができています。また、手伝わってもらった際には、職員から「ありがとう」と感謝の言葉を伝える機会が多くあるほか、利用者の方から「手伝うよ」と言ってもらったこともある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者が喜ぶ事、出来る事を日々見つけながら行っている	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナの時期もあり地域の中での役割、出番の支援は出来ないが、ホーム近くを散歩しながら、花、動物、景色等見、すれちがう方がいれば挨拶行っている				

愛媛県グループホームくれない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人や家族へ聞きながら好む身だしなみ、好みの色等把握している				入浴時や起床時に、着る服を自分で選び、身だしなみを整えることができる利用者もいる。また、整容の乱れや食べこぼしなどの汚れが見られた場合には、利用者のプライドを大切にされた配慮をしながら、さりげないフォローをしている。さらに、重度になった場合にも、利用者や家族から好みの服を聞き、家族に用意してもらうなど、本人らしさが少しでも保てるような支援に努めている。加えて、訪問理容などを活用して、髪型も利用者の希望を聞きながら、整えることができる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人が好むもの着て、使って頂いている。季節の感覚がない方もおり、家族の協力とスタッフにて衣替えを行い、季節に合った服が着れる様になっている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定出来ない方へもどちらが良いか聞いたり、見て頂きながら支援行っている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	コロナの影響にて中々外出は難しくなっているが、ホーム近くを散歩する時など家族へ協力して頂き、季節あった上着で外出している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりけなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	整容、衣服の汚れ等があれば居室やトイレにて着替える、さりげなく直す等している	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ホームにて理容して頂いているが、家族さんが美容師されている方がおり入居前より家族さんが切っていた為、家族さんがホームにて切ってもらっている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人や家族に聞きながら希望や本人に合った髪型、服装に心がけている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は利用者にとって一番の楽しみであり、食事の大切さは理解している				事業所では、業者の配食サービスを活用しており、事業所内で炊飯や汁物の調理をするほか、届けられたおかずの盛り付けを行い、利用者に食事を提供している。また、利用者には、お盆拭きや食器洗い、下膳など、できることを手伝ってもらっている。時には、配食サービスを止め、利用者のリクエストを反映させて職員が手作りの調理を行う日を設け、利用者が食事を楽めるよう工夫している。茶碗や湯飲み等は、使い慣れた物を持ってきてもらい、使用している。コロナ禍において、食事を職員がマスクをはずして一緒に食べることを控えているものの、少し離れた場所で検食を兼ねて同じメニューを順番に職員が食べている。また、リビングの中にキッチンがあり、重度であっても、食事の準備の様子を感じることができているほか、メニューを伝えるなど、食事が楽しみに待てるような支援にも取り組んでいる。さらに、配食サービスのため、栄養の偏りは見られないものの、利用者の状態に合わせて、刻みやミキサーなどの食事形態を職員間で話し合い、事業所内で個別に対応することができる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物、献立、食材選びはスタッフがやっているが、後片付けは利用者と共にやっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	スタッフがしている事が多いが、食前の準備、後片づけ等は利用者さんにして頂いており、笑顔で下膳して下さい、私がしなると率先して片付けて下さる方もいる				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	利用者の好きな物、嫌いな物、アレルギーの有り無しは家族や本人からの聞き取りにて把握している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	献立は決まっている事が多いが、おやつなどは季節の果物、季節感のある物、季節の野菜を使った味噌汁など出来る限り取り入れている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	△	一人一人にあわした形態での提供を行い、器や盛り付けなど工夫している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	コップ、箸など本人用を用意しており、使いやすいものになっている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	スタッフも一緒に食べており、嚥下のしやすい方には横に付き支援を行いながら、喉のつまりがないように、楽しい食事になる様に支援行っている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音やにおいを伝えながら、利用者近くで調理している。食事が待ち遠しい方にはもうすぐですよと声かけながら調理している		◎	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人ひとりに合した、食べられる量やバランスを見ながら提供している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	主食を残す方にはふりかけ行いおにぎりとお渡しし食べて頂くなど本人が好む工夫しながら低栄養にならないように心がける				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	食事レクリエーション等行っており、利用者が喜ぶメニューなどスタッフ間にて話し合い献立決めている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	洗浄後の食器は乾燥機で乾かすなど衛生管理に努めている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性は理解しており、毎食後口腔ケアの支援を行っている				定期的に、事業所には訪問歯科の健診があり、利用者の口腔内の状況を確認してもらうとともに、口腔ケアの方法などのアドバイスをもらうことができている。また、治療が必要な場合には家族へ連絡を行い、適宜訪問診療等に繋げている。さらに、毎食後に職員は利用者へ声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを実施するとともに、特に夕食後の口腔ケアに力を入れて取り組んでいる。加えて、口腔ケア時には、職員が磨き残しなどが無いようにチェックを行うほか、磨き残しがある場合には、サポートをしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科医師の訪問にて利用者の状態の報告や毎日のケアにて把握している			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医師の訪問にて利用者の状態の報告、口腔ケアの方法や気を付ける事など聞き日頃の支援に生かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人が出来る人は見守り、磨き直しが必要な方は声掛けながら介助している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	本人が出来る所までして頂き、磨き直しが必要な方は声掛けながら介助している。歯磨き粉を口に入れる、コップに移してしまいう等居る為、スタッフが横に付きながら支援を行っている			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	歯科医師の方が訪問にて口腔内の検診っており、必要な方はDrの訪問にて治療を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	利用者の状況を踏まえながら必要時は紙パンツ、パッドを使用しているが、排泄はトイレにて行えるよう支援しておりスタッフも理解している				事業所では、トイレでの排泄を基本として、支援に努めている。また、職員は排泄記録を確認し、排泄パターンのほか、自分でトイレへ行ける利用者や付き添いの必要な利用者などの状況を個別に把握し、声かけやトイレ誘導をしている。また、必要に応じて、おむつやパッドなどの使用を職員間で話し合うとともに、家族に確認を行い、適切な排泄用品が使用できるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘が体調の悪化につながる事は理解しており、食事、運動、必要時は緩下剤を使用しながら便秘対応している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄表にてパターンは把握している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	基本、トイレにて排泄を行っているが、持病や認知症、高齢等の為、わからない、漏れなどがある方はその人それぞれに合った物を使用し支援を行っている		◎	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄を困難にしている要因等を探り改善に向けた話し合い等は行っており、改善に取り組んでいる				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターン等に合わせて早めの排泄の声掛け、誘導は行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	紙パンツ、おむつに移行時は本人、スタッフ、家族と話し合い決めており、使用しながら改善出来る様支援を行っている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着や紙パンツ・パッドの種類などを適時使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食事、水分に気を付け、軽い運動を行いながら、必要時は緩下剤を使用しながら自然な排便を促している。便の状態を見ながら緩下剤の量は調整している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	決まった曜日はあるが、都合にて入浴出来ない日は次の日に入るなど考慮しており、長さ、回数も便汚染にて汚れてしまった方など曜日関係なく入浴するなど対応している		◎	○	事業所では、入浴できる曜日が決まっているものの、利用者の意向や汚れなどの状況に応じて、決められた日時以外に入浴を可能としている。また、お風呂の予定表は、キッチンの前に貼り、週2回以上利用者が入浴できるよう支援している。さらに、湯の温度や湯船に浸かる時間の長さなど、利用者の希望に応じて、柔軟に対応をしている。加えて、入浴を拒む利用者には、職員が根気よく声かけをするなどの工夫を行い、入浴してもらうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	ゆっくりとした雰囲気の中入浴出来るよう支援を行っている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る所は洗身、洗髪して頂き、出来ない所は介助している。着替えも一人では出来ない方は声掛けしながら尊厳を持ちながら介助している				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む方へ入浴と言わず、薬を塗りますよと声掛けを工夫しながら、スムーズに浴槽へ誘導している。同性の介助を好む方へは同性のスタッフが支援を行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタル測定を行い、値を見ながら入浴行っており、入浴後も必要時はバイタル確認を行っている				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者一人一人の睡眠パターンは把握しており、少しでも安心して入眠できるよう支援している				事業所には、夜間に眠りの浅い利用者があるものの、睡眠導入剤や安定剤などの薬剤を安易に頼ることなく、日中の過ごし方を工夫しながら、可能な限り、夜間に安眠できるよう努めている。また、事業所ではセンサーマットを使用したり、ベッドの周りにマットを敷き詰めたりするなど、起床時等に転倒による事故や怪我の防止に努めている。さらに、不眠などの続く場合には、利用者の体調面を考えて、医師に相談し、睡眠導入剤などを処方してもらう場合もある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜寝れない方については原因は何か本人の様子観察しながらスタッフ間にて話し合い取り組みを行っている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間ずっと起きている、歩けないが歩こうとしたり転倒の危険性がある、何度も部屋より出てこれたトイレ回数が多い方など、出来る限りの対応を行うが、本人に危険性があるため、心療内科にて内服や処方して頂き服用している方はいる。昼間は起きて頂く支援は継続している			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	高齢で円背にて除圧、褥瘡の予防の為、昼間一度は横になって頂き、休息している方がいる。他の方へも昼寝を促す支援は行っている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	定期的に夕方家族から電話がありお話ししている方はいる。自室に電話がある方は電話したりかかってきた家族とお話している				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状を介助しながら利用者へ書いて頂き、家族へ送っている。不安時に家族と電話にて話したり、メールにて本人の思いを家族へ伝えたりと支援行っている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人からの希望があればいつでも電話が出来るようにしている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	家族からの手紙などは本人へ渡している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	遠くの家族さんと電話で繋がっている方はおり、不穏時は家族と電話で話して頂いたり、時間がある時など家族からも電話頂けるようお願いしている。事務関係にて電話した時なども本人と代わり話しが出来る様に支援行っている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解はしているが、所持している方は少ない。紛失等のリスクもあり家族への理解得ている。お金を持っていることで不穏になる方もあり預かっている方もいる				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	お金の所持や使う機会は今はつくっていない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	利用者と共に買い物出来る支援は今行っていない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	欲しいものがある時は預かりのお金にて購入するなど行っており、家族の理解は得ている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	基本施設にて預かり必要なものがあれば預かりのお金にて購入している。家族とも話し合い行っている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本、施設にてお金を預かり、お金の出入りは出納帳への記入している。月に1度出納帳を締め、出納帳のコピー、領収書を家族へ送り、確認して頂いている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族の状況に変化があれば随時、柔軟にサービスの内容を検討し、支援に取り組んでいる		◎	○	コロナ禍において、事業所では、外出や面会などの制限が設けられているものの、可能な範囲で、利用者や家族から出された意見や要望には、柔軟な対応に努めている。また、事業所では、個別にお菓子や花などの買い物支援にも取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入りが出来る様に、昼間は鍵がかかっている。今はコロナの時期にて面会が窓越しになっている。玄関近くの窓越しにて面会が出来る様になっている	◎	◎	○	住宅街にある事業所の建物は違和感なく周囲に馴染んでおり、気軽に来訪しやすい雰囲気が感じられる。また、玄関周辺も、きれいに整理整頓されている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	正月に書いた書初めや家族へ送っているお便りや日頃利用者が書いた絵などを展示している。利用者が取りやすいようにリビングへかた、本、パズルなど置いており、家庭的な雰囲気の中過ごせる様になっている	○	◎	◎	大きなテーブルが置かれたリビングは明るく、日中に利用者は集い、ぬり絵やランプ、カラオケなどのレクリエーションを楽しんでいる。また、壁には季節感のあふれる展示物が飾られ、利用者の多くの力作を見ることができた。さらに、事業所内の掃除は行き届き、不快な音や臭いは感じられない。加えて、食事の準備をはじめ、リビングの様子が利用者や来訪者に伝わりやすく、和やかな雰囲気を醸し出してくれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は毎日行っており、不快な音、光、臭いなどはないように心がけている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じて頂けるように季節の花、置物など飾り、日めくりのカレンダーを目に付く所へ飾っており、利用者が取りやすいようかた、本、パズルなど日頃過ごしている所へ置いている。台所がリビングにあり食事を作っている臭いなど感じる事が出来る	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	椅子のみではなく、ソファやたたみコーナーにて過ごす事が出来る。玄関先に椅子があり、毎日石鮎山を見られている方がいる	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	戸やカーテンにて直接見えなくなっている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅にて着ていた服や、テレビ、バック等を持ってきて頂き、なじみの物の近くで生活できる様に工夫している	○	/	◎	居室の入り口には、利用者の分かりやすい高さで表札が設置されている。また、居室にはチェストやテレビ、机、ソファ、仏壇、家族の写真など、利用者の好みや馴染みの物を持ち込むことができ、思い思いに配置するなど、快適な空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	独歩で歩かれる方が多い為、歩行の妨げにならないように環境整備は常に行っている。	/	/	○	居室やトイレは、利用者の分かりやすい高さで名前などが表示され、利用者が混乱せずに、生活が送れるよう工夫している。また、事業所では洗濯物たたみや清掃、食器洗いなど、利用者積極的に手伝ってもらうとともに、職員は間違っても特に指摘することなく、穏やかさを重視した支援に取り組んでいる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	リビングへ日めくりカレンダーを置き、さりげなく今日が何月何日か見えるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞を毎日読む方へは毎朝手に取れるところに置き見れるようにしている。他にも本、かるた、パズル等自主的にされる方が手に取りやすい所へ置いている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態では暮らしの不安、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員全員がカギをかける事の弊害を理解しており、鍵をかけていない	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることの弊害をよく理解しており、日中に玄関等の施錠はしていない。また、外出願望や外に出ようとする利用者には、職員が寄り添い、屋外に出るなどの対応をしている。さらに、夜間は防犯のため、玄関等の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族と話し合い理解を得ている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	鍵をかけず、日中玄関先へ行くこととされる方や他の方の見守り、外出の察知を常に念頭に置き支援行っている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシートを見て把握するように努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタル測定を行い、些細な変化に気づけるようにしており、様子や再検査値など記録に残している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	往診を下さっている主治医、連携を取っている訪問看護に相談できる体制を取っている。管理者と24時間連絡が取れる体制を取っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居前の医療機関へ引き続き受診できるように支援行っている。これまでの受診状況の把握は出来ている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人、家族が希望する医療機関にて適切な医療が受けられる様に支援行っている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	ご家族が同行する場合は本人の様子を手紙等にて伝え、受診後の結果も聞き記録に残している。往診の受診内容も電話連絡、手紙等にて家族へ伝えている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	ホームでの状態や介護状況についてサマリーを作成し情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係者との情報交換、相談に努めている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	往診や受診時にてよい関係づくりに努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常の関わりの中で得た情報や気づきを週に1回の訪問看護の方へ伝え、相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	訪問看護、往診して下さっている医療機関へ相談できる体制行っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	変化に応じた支援は適切に出来ており、早期発見、医療に繋げている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	介護記録に最新の処方箋を入れ、いつでも見れようとしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	飲み忘れ、誤薬を防ぐ取り組みは行っている。服薬前に職員同士で確認し本人へも見て頂き服薬、確認行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服用後異常がないかの確認は日常的に行っており、緩下剤などは毎日の排泄表を見ながら調整行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の変更時は家族へ伝えており、経過も伝えている。家族や医師、看護職等に情報提供している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	入居時に説明は行っているが、状況が悪化した場合はその都度本人・家族等と話し合いを行いながら、今後の方向性の検討を行っている	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居時や状態の変化に応じて、家族に説明するよう努めているものの、約1年前に事業継承されたため、既に入居していた全ての家族にまでは説明できていない。また、事業所では、事業継承されてから1名の看取り介護を経験している。さらに、状態の変化に応じて、利用者や家族、医師等の関係者を交えて話し合いをしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	△	状況が悪化した場合は本人・家族等、職員、かかりつけ医・訪問看護で話し合い、方針を共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	管理者、職員を交えてどこまでの支援が出来るか話し合っている	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	事業所の出来る事、出来ない事やどこまで出来るか、対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	家族、主治医、訪問看護等と連携しながら支援していく体制を整えている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	家族へは連絡取り合い話をしながら、少しでも支えになれるように努めている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	社内研修にて勉強している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症が発生しないように予防、消毒等を行っている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	保健所や行政、医療機関等の情報は入手し、取り入れている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがい、マスクなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても手指消毒して頂いている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時などに本人の様子を伝え、支援にて困っている時は連絡取り本人と話して頂くなど一緒に支えていく関係を築いていく	/	/	/	事業継承前のコロナ禍以前は、家族へ行事等の参加協力を呼びかけたり、家族に利用料金を窓口で支払ってもらった際の来訪に合わせて、コミュニケーションを図ったりすることができていたが、現在のコロナ禍において、事業所の活動参加への呼びかけなどを自粛している。また、事業所だより等を活用して、利用者一人ひとりの活動写真や事業所の出来事などを記載して送付し、家族に喜ばれている。過去の便りには、管理者や計画作成担当者の入職状況が記載されているものの、コロナ禍もあり、利用者家族等アンケート結果から、事業所の運営上の事柄や職員の入退職が十分に伝わっていないことがうかがえるため、今後は、家族への周知方法を職員間で検討することを期待したい。さらに、家族と何でも相談し合える関係性が築かれ、意見や意向を聞くことができています。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	△	コロナの影響があり、窓越しでの面会になり人数、時間制限はあるが、少しでも来て頂けるよう来やすい雰囲気に努めている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	コロナの影響にてホーム内への入室は断っており、ホーム内での活動への参加は出来ない。外出も限られており今は出来ない	/	x	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月に1度便り、家族への手紙を郵送しており、フェイスブックを利用しながら利用者の様子が遠く離れている家族へも届くようにしている	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	問い合わせがあれば随時お伝えしている。伝える事が有れば連絡し本人の様子等伝えている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人の関係性や繋がりを大事にしている。よりよい関係性を築けるように支援を行っている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	施設の運営上の事柄についても定期的に便りにて報告し、理解得ている	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	コロナの時期の為、家族同士の交流は出来ない	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	△	利用者により起こるリスクは入居時に家族に伝えているが、特にリスクが高くなった時などは随時伝えて、対応策も話し合っている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	意見や希望を伝えやすい様に連絡は取り合っている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入居時に説明を行い、理解、了解を得ている。変更がある時は随時説明している	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族、本人へ十分な話し合い、説明を行い、納得のいく退去先に移れるよう支援している	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	新型コロナウイルスの感染予防の為、運営推進会議の開催ができていない為、手紙にて施設の様子を伝えている	/	◎	/	コロナ禍において、事業所では、地域行事などに参加することができておらず、散歩時などの近隣住民とのあいさつ程度に留まっている。コロナ禍以前は、近隣の保育園児と交流をしたり、気軽に地域住民や子どもが事業所へ来訪したりすることができていた。コロナ禍の収束後には、地域住民との交流等が再開できることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	コロナの影響にて地域活動への参加が出来ていない。散歩にて出会った時は挨拶は行っている	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	コロナの影響にて外出も減ってきており、地域の方とも交流出来ていない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナの影響もあり、行えていない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナの影響もあり、行えていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナの影響もあり、行えていない	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	中々地域資源の活用は出来ていないが、ホーム近くを散歩する等は行っている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	コロナの影響もあり、行えていない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	×	新型コロナウイルスの感染予防の為、会議の開催が出来ていない	×	/	△	運営推進会議の参加メンバーは、地域住民等に無作為に選んで依頼しているほか、自治会の役員にも声をかけている。今後は、利用者や家族にも会議開催を幅広く周知するとともに、書面や議事録の発送などを参加の一環と捉えて、会議へ参画してもらいながら、サービスの質の向上に繋がることを期待したい。また、事業所では、事業継承後の最初の外部評価のため、今後の運営推進会議の中で、サービスの評価結果の報告を予定していることもあり、目標達成計画を合わせて明示し、報告できることを期待したい。さらに、現在の運営推進会議は、書面を通して意見の交換が行われている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	コロナの影響もあり、行えていないがホーム様子等紙面を各参加メンバーの方へはお送りしている	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	コロナの影響もあり、行えていないがホーム様子等紙面を各参加メンバーの方へはお送りしている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナの影響もあり、行えていない	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	コロナの影響もあり、行えていないがホーム様子等紙面を各参加メンバーの方へはお送りしている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	一人一人を大切に理念に基づいた生活が出来るよう取り組んでいる				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関先の目に付く所へ掲示している		△	◎	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	施設内外の研修を受けられる様に取り組んでいる				事業所では、年間の研修計画を作成するとともに、定期的に社内研修等を実施し、職員のスキルアップに努めている。また、職員にはストレスチェックを実施するとともに、管理者は職員への声かけや適切な相談等に繋げている。さらに、管理者は職員の相談等に耳を傾けながら、働きやすい職場環境づくりに努めている。加えて、管理者は、「職員同士の良好な関係性ができている」と感じている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	スキルアップできるよう取り組んでいる				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。						
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)						
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。				○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待防止法について学び、どんな行為が虐待に当たるか理解している				社内研修等を活用して、職員は虐待防止等を学び、理解をしている。また、外部の研修に参加できないこともあり、ユーチューブの動画配信等を活用して、不適切なケアなども学ぶとともに、不適切な行為を発見した場合には、管理者等に報告して注意喚起を行い、再発防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	月に1度の職員会にて話し合い、必要時は適宜話し合い行っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切な行為が見逃ごされる事のない様にしており、発見した場合の対応、手順については理解している			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員との対話の様子を見ながらストレス、疲労を溜めていないか観察している				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修を行いながら理解している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束について現場のことに照らし合しながら話し合い行っている				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を行わないケアを基本とし、家族の理解を得ている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	制度について理解はしている	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	問い合わせがあった時は説明、対応行う	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要に応じて連携をとっている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変、事故等の対応マニュアルを作成し、周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的に勉強会を行っており、対応できるよう努めている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故が発生すれば事故報告書、ヒヤリハットは作成しており、話し合いを随時行い再発防止に努めている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	リスクや危険についての検討は随時行っており、事故防止に取り組んでいる	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	適宜対応している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかに対応しており、必要時は市へも相談、報告している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して速やかに検討、対応している。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	窓口、意見箱を設置し早急に対応できる様にしている。日頃より要望、苦情を伝えられるような関係性を努めている	/	/	○	日々の支援の中で、職員は利用者から意見や要望を直接聞き取り、可能な範囲で対応をしている。また、事業所から意見を聞く前に、家族と何でも相談し合える関係性が築かれ、意見や要望を聞くことができています。さらに、職員はリーダーや管理者に、意見や要望を伝えやすい雰囲気づくりができています。運営に関する事柄は少ない状況となっている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関先に窓口、意見箱を設置しており、何か意見、要望あれば職員、管理者へ伝えられる機会を作っている。	◎	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的な窓口の情報提供を適宜行っている	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	直接聞く機会を作っている	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員一人一人の意見や提案は随時聞いている、支援向上のために随時検討している	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	管理者、職員と共にサービス評価を理解し、自己評価に取り組んでいる				事業継承された事業所では、今回が初めての外部評価のため、管理者やリーダー等を中心に、自己評価を作成している。今後、サービスの評価結果は職員全員に周知するとともに、運営推進会議の中で報告を予定している。また、評価結果は、事業所からの報告のみに留まらず、コロナ禍の収束後には、目標達成計画などの取り組み状況のモニターを、会議の参加メンバーや家族に協力を呼びかけたり、取組み状況の意見をもらったりするなど、モニターをしてもらえるような体制づくりを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して再認識ができ、学習の機会として活かしている				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し、達成に向けて取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	行政、運営推進会議メンバー、家族等に結果を報告し今後の取り組みの見守りして頂いている	△	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議メンバーへ結果報告を送付し確認して頂いている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	△	マニュアルを作成しいつでも見られる様に提示している				年2回、日中や夜間等を想定した避難訓練を実施している。コロナ禍において、他の機関や地域住民等との合同訓練までは実施できていない。コロナ禍の収束後には、地域住民や家族等の参加協力を得て、避難訓練を実施したり、運営推進会議を活用して、災害の備えなどを話し合ったりするなど、少しずつ協力支援体制が構築されることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	年2回消防の協力の元、避難訓練を実施している。現在はコロナの影響にて回数は減っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消火設備等は業者の方に依頼し定期的にて点検行っている。非常用食料・備品・物品類の点検も定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	現在はコロナの影響にて合同の訓練は出来ていない	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	現在はコロナの影響にて地域のネットワークづくりへの参加は出来ていない				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	現在はコロナの影響にて地域に向けての情報発信は行っていないが、相談等があれば乗る様にしている				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	相談等があれば支援行っている		△	○	事業所では、積極的な相談の周知までは行っていないものの、寄せられた相談には快く対応をしている。コロナ禍において、事業所では他の関係機関との連携は最小限に留めているものの、市行政や地域包括支援センターとの良好な連携に努めている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	事業所を解放する等は今は出来ていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	依頼があれば協力している				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	×	コロナの影響もあり、現在は地域活動等は出来ていない			○	